



就任挨拶

取締役

繁田 真記夫

新日鉄エンジニアリング(株)から転籍し、4月1日付けで製鉄プラントエンジニアリング部長を拝命いたしました。自己紹介を兼ねてご挨拶させていただきます。

昭和54年に新日本製鐵(株)に入社し、希望通りPMD(当時の工作事業部)に配属されて以来32年間、戸畑勤務ひと筋で製鉄プラント事業に取り組んできました。設計、計画室、プロマネ、GL、宝鋼4冷延班長と鋼板処理分野を長く経験し、最後は製鉄PE第2部長として連鑄、圧延、加熱炉を含めた下工程全体の事業管理を担当してきました。

14年間の設計時代には、新日本製鐵(株)社内向けの改造案件を多く担当し、中でも新人の頃は同芯軸スプリッター、片面亜鉛メッキ、300mpm高速リール切替え等、開発性の高い業務を担当し、基地でも現場でも徹夜で鍛えられ、あまり自慢できませんがトラブルも何度も乗り越えてきました。その後、広畑FIPL、君津4CGL新設等の大型案件や、米IN/TEK新設やイタリアILVA/3CGL新設での海外SVも担当するようになりました。が、しかし設計時代前半に経験した多くの改造案件で培った体力と耐力こそが、間違いなく私のプラント人生の原点になっています。

2年間の計画室と4年間のプロマネ時代には、中国/宝鋼2冷延ブリキ、韓国POSCO/K4C、タイBSI/CGLと、トルコERDEMIR/CGLターンキー、台湾SYSCO/CGLターンキー等の受注前案件で、新日本製鐵(株)社内や国内の投資が冷え切っていた時代に、海外での厳しい戦いに挑んで勝ち抜き、その後はタイSUS/CAPLターンキー他の受注後実行管理を担当しました。この辺りが、事業とは何か、外販の意義、重量削減や安価型外販仕様での徹底したコストダウン、海外サプライヤーとの戦い、交渉の面白さ等々から、私の外向きの精神基盤ができ上がった頃です。

今、新日鉄エンジニアリング(株)では新日本製鐵(株)の海外展開への貢献の一方で、上は高炉から下は鋼板処理まで独自海外展開を志向しています。技術開示等いろいろな制約はあるものの、内に籠らず自らが実力をつけてその制約を解き、遅く外に向かって行く努力は、私たちNPDのエンジニアとしてもやりがいの面で大きな意義があると信じます。皆さんと一緒に、苦勞しただけ報われる、楽しく生きがいを感じる仕事をしたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。